つながることで変わる思い

うぃず守口（金下町 1-6-10）でクッキーを販売する様子。元気に笑顔で道行く人に声を掛けます。

一歩踏み出す

知的障害は症状や程度によってさまざまです。知的障害のある人との意思疎通で大事なのは〝お互いに一歩踏み出すこと〟。どうしても〝話しかけにくい〟といったイメージを持ってしまいがちです。また、障害のある人は家や狭いコミュニティーに引きこもることが多くなってしまいます。

知的障害の人と、その保護者への支援を行っていく上で、就労支援は障害者の自立と社会参加に欠かせないものです。

イメージを変えたい

障害のある人は、働く経験を得る機会が少なかったり、経験がなく自分に自信が持てない人が多いです。家族や周りの人が〝この子はできない〟という思い込みで、働く経験や外に出る機会を与えていないこともあります。自分でこれは仕事と分かりさえすれば、できない人はいません。少しの作業だけでも仕事であることを教え、経験を積ませることが大事です。働くことで人間関係や社会経験を学ぶことができ、働くことを中心にして自分に何ができるかを探します。そうすることで個人差はあっても必ずその人に合った仕事が見つかります。できないだろうという概念を覆すことが最初のスタートです。

働くことで感謝される喜びを

「働いているときが一番生き生きしている」就労支援を行う事業所の皆さんはそう言います。何もしていないよりも仕事をしている方が、何をしたらいいかがわかりやすく落ち着くと言う人もいます。一生懸命仕事をして給料をもらうことは、仕事の内容に関係なく喜びを感じます。〝助かった〟〝ありがとう〟と言われる喜びは誰もが抱くものです。感謝されている意味合いはどんなに障害の重い人でも、心の中で分かります。相手の気持ちや周りの雰囲気などを察する能力はむしろ鋭いこともあり、少しのことで不安定になったりすることもあります。でも誰もが心の中にあるのは感謝されることを求めていること。

働くことを通して世の中の役に立つことを実感することで〝あなたはここにいていい、必要な存在なんだ〟というような自尊感情を育成していくこと。みんなでそれぞれの人の良いところを見つけることで、本人の心の中だけではなく、周囲のイメージも変わります。

それぞれの個性を大事に

感謝の気持ちを

障害と聞くと少し臆することがあるかもしれません。暴れたり叫んだりしているのも一人一人の個性であってただ表現方法が難しいだけ。実際に話しかけてみても言葉がつたないので分かりづらいことや、相手から返事が返ってこないこともあり、会話が一方通行になっていると感じてしまいます。でも、話しかけるのをやめないでください。〝話しかけた言葉や思いは確実に伝わっていること〟を知ってください。また、そんな時は〝ありがとう、いいね、すごいね〟といった言葉を投げ掛けてあげましょう。障害のある無しに関係なく接する人を一人でも多く増やすことが〝全ての人が共に支え合う社会の実現〟につながります。

努力を積み重ね　みんなの期待に応える

建機レンタル業の奥村機械株式会社（佐太中町）で働く光畑さん。守口支援学校高等部のときに奥村機械での職場実習を経験し、そのことがきっかけで入社しました。今年で３年目です。入社後は支援センターのサポートも受けながら働いています。会社が知的障害のある人を雇用するのは彼が初めてであり、試行錯誤を重ねながら働きやすい環境作りに取り組んでいます。

事務所・工場・機械の清掃のほか、筋肉痛になるような重い機材を運ぶ体力仕事があります。うまくいかずに失敗し、周りから叱られ、悔しくて泣いたこともあります。しかしそれでも休むことなく毎日仕事に来ていて、すごいと仕事仲間から認められています。

「今は仕事がとても楽しい」と言います。ひとつの作業を終えたときは達成感を味わいます。給料で好きなものを買ったときは喜びを感じます。目標は、機械の修理など難しい仕事もできるようになること。

仕事仲間が光畑さんとのやりとりで意識しているのは、“できたこと”“できなかったこと”を細かく把握し、一緒になって振り返ること。その上でさまざまな作業を経験させたり、“今月の目標”を設定します。そうすることで今ではハキハキと挨拶し、きびきびと行動できるようになったと言います。建設機械の知識・技術も日々身に付けています。初めは電工ドラム１台のコードを巻くのに２日かかりましたが、今では10分程度でできるようになりました。

仕事は周りの人との関わりが大事です。仕事仲間が光畑さんの頑張りを期待している。本人もそれに応えようと努力する。“何の仕事をするか”ではなく“誰と仕事をするか”が大事であることを感じさせます。

光畑（みつはた）　和樹（かずき）さん

楽しく過ごす　仲間と共有する喜び

桒原（くわはら）　優子（ゆうこ）さん

就労継続支援Ｂ型（働く意欲がありながら一般企業での就労が困難な人に働く場を提供する）を行っている「うぃず滝井（滝井西町）」。ここで作業をしている桒原さんは、主にマグネットハンガーや画鋲（がびょう）などの内職作業やクッキーやお菓子などの販売活動をしています。

以前は違う事業所にいましたが、自分の意思で働きたいと、ここに来るようになりました。作業はそれぞれのメンバーで分担して得意なことを行います。一人で全ての作業をこなすことが難しくても、分担することで効率良くできます。けんかをするときもあります。それでも一緒に仕事をするからけんかができる。一人ではけんかはできません。

月に一度の給料日には、メンバー全員でどこに行くかを決めて買い物をします。どこに行くか決まらない時もあるけれど、意見を出し合ってみんなで話し合うことや、電車の時間を調べたり、自分の考えで何をしたいのかを決めることが大事。

桒原さんの良いところは、自分の意見や、ありがとう、ごめんなさいが素直に言えることだとスタッフは言います。「仕事は楽しい。全部できたときはうれしいし、友達はみんな優しい子が多いよ」と桒原さん。特に販売の仕事では、たくさん売れるときと売れないときがあるけれど、売れないときは元気に声をだし、頑張って売れたときは達成感があります。「まだやったことのない作業も早くしてみたい」と言います。

障害のある人もない人も、全ての人が自らの意思で選ぶ喜びを分かち合うべきだと感じます。